



## あったかハート推進週間の取組（3月）

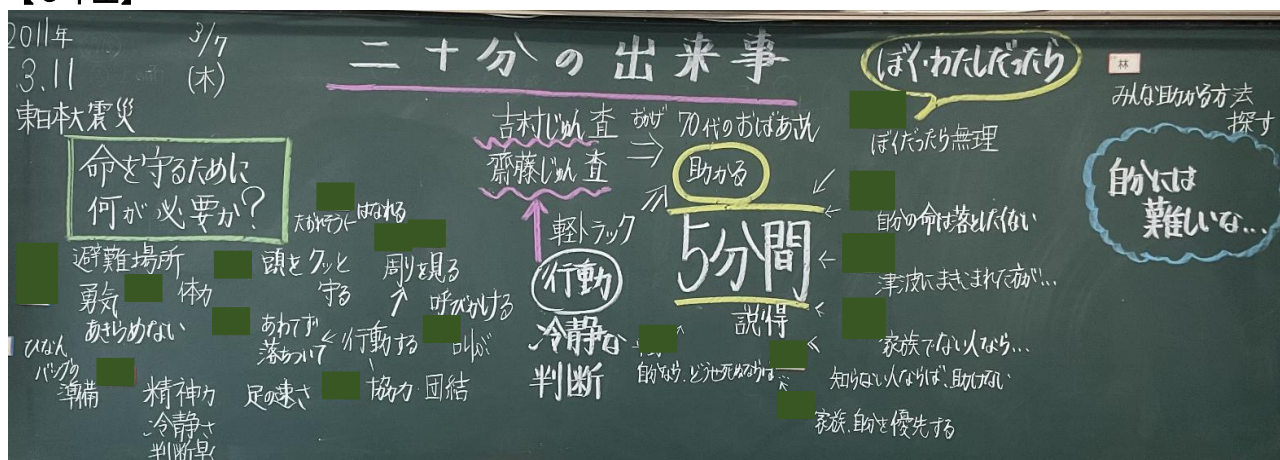
今年度、附属小学校では子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。

3月は、以下の内容で道徳科の授業を行いました。

月	期 間	内 容
3月	3/4（月）～8（金）	道徳科の授業④ 内容項目：生命の尊さ

### 1 実際の授業

#### 【5年生】



5年生は「二十分間の出来事」という教材で、生命を守るために必要なことについて考えました。

「二十分間の出来事」は、2011年に起きた東日本大震災の際の実話をもとにした話です。大地震発生時、電車に乗っていた2人の新任の巡査は、津波が来る20分間で乗客を全員避難させて、津波から命を守りました。乗客を全員引き連れて高台へと避難している途中、70代の女性が「ここで家族を待つから残らせてほしい」と、1人の巡査にお願いします。巡査は「ここは危ないから離れなくてはいけない」と説得し、みんなとは5分遅れで出発しました。津波はわずか数十メートル先のところでようやく止まり、尊い全員の命が守られたという話です。

#### ①「乗客全員の命が助かったのはなぜか」について考える

子供たちは、わずか20分間で乗客全員の命が助かったことに驚いていました。そして、なぜ助かったのかについて真剣に話し合い、2人の巡査の行動や冷静な判断が全員の命を助けることにつながったと考えました。ただ、70代の女性のために5分間という時間をかけた巡査の行動については、意見が分かれました。

#### ②「自分だったら、5分間その場に残ることができたかどうか」について考える

子供たちは、5分間その場に残って70代の女性を説得した巡査の行動を称賛しながらも、「自分だったら無理だな」「自分の命は落としたいくない」「知らない人ならば助けないかもしれない」と、自分だったらどうするかという視点で考え始めました。「今の自分には難しいことかもしれない」と自分の命を大切に考える一方で、「70代の女性が自分の家族や知り合いだったら」と、悩みながら真剣に考える様子が見られました。話し合いを通して、誰にとっても生命は平等にあり、生命を大切にしなければいけないと実感していました。

他の学年でも、生命の大切さについて真剣に話し合い、考えを深める様子が見られました。